

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年8月13日
【四半期会計期間】	第29期第1四半期（自平成26年4月1日至平成26年6月30日）
【会社名】	オーウイル株式会社
【英訳名】	O' will Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小口 英器
【本店の所在の場所】	東京都港区北青山一丁目2番3号
【電話番号】	(03)5772-4488(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 管理本部長 粟野 恵介
【最寄りの連絡場所】	東京都港区北青山一丁目2番3号
【電話番号】	(03)5772-4488(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 管理本部長 粟野 恵介
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第28期 第1四半期連結 累計期間	第29期 第1四半期連結 累計期間	第28期
会計期間	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成26年4月1日 至平成26年6月30日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
売上高 (千円)	7,478,784	7,396,174	27,084,504
経常利益 (千円)	115,227	69,617	322,474
四半期(当期)純利益 (千円)	69,560	41,359	165,852
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	84,468	51,191	174,177
純資産額 (千円)	1,624,424	1,764,855	1,714,100
総資産額 (千円)	9,712,844	8,451,137	7,780,804
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	22.08	13.13	52.65
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	16.7	19.9	22.0

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、当第1四半期連結会計期間より、従来は非連結子会社であったJ.S.O'will, Inc.を、重要性が増加したために連結の範囲に含めております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、平成26年4月に実施された消費税率引き上げに伴う駆け込み需要による反動の影響が懸念されたものの、政府の財政、金融政策を背景に、緩やかな回復傾向で推移いたしました。しかしながら、新興国の景気減退や原材料の高騰等、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

食品飲料業界におきましては、景気回復への期待感から消費マインドは改善傾向にあるものの、消費税増税等による物価上昇の不安材料から、消費者の生活防衛意識は依然として高く、消費に結びつき難い状況が続いております。

このような状況下、当社グループは「お客様に十分ご満足のゆく商品・サービスの提供」を品質方針として、安定的な原材料・資材の供給体制を維持するとともに、新規商品の積極提案、新規取引先の開拓等による拡販に努めてまいりました。糖類や香料等の食品副原料や茶葉等の販売が伸長したものの、果肉缶詰や飲料製品等の販売数量が減少したこと等により、当第1四半期連結累計期間の売上高は7,396,174千円（前年同期比1.1%減）となりました。また、業務用殺菌乳の販売数量増による物流費の増加及び、平成25年11月に実施した基幹システムの新規導入に伴う当第1四半期の減価償却費計上額の増加等により販売管理費が増加し、営業利益は70,956千円（前年同期比16.0%減）となりました。営業外収支において為替差益が減少したことから、経常利益は69,617千円（前年同期比39.6%減）、四半期純利益は41,359千円（前年同期比40.5%減）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりであります。

<卸売事業>

飲料市場においては、少子高齢化の状況下にある国内市場では飲料メーカーが多数存在しているほか、グローバル展開の加速及び企業再編の動きもあり、企業間の競争は激化しております。

このような状況下、当社グループは取引先の要望にこたえるべく、これまで以上に供給先との関係を強固にして安定的な原材料の供給に努めるとともに、更なる品質管理体制の強化により、安心且つ安全な商品の提供を行うよう、努めてまいりました。脱脂粉乳や生クリーム等の乳及び乳製品、ジャスミン茶や果汁等の農産物及び同加工品の販売が好調に推移したものの、果肉缶詰や飲料製品の販売数量が減少したことから、売上高は7,162,241千円（前年同期比1.9%減）となりました。

<製造販売事業>

安心且つ安全な商品をお客様にお届けするために、品質管理面をより一層強化し、取引先に安心して生産委託していただけるよう、製造環境の整備に注力いたしました。これにより、取引先からのPB商品の新規受託件数が増加し、売上高は155,911千円（前年同期比1.7%増）となりました。

<その他>

その他においては、コンビニエンス事業を大手町地区で展開しておりますが、平成25年10月に1店舗を新規出店し、合計5店舗となったことから、売上高は238,598千円（前年同期比19.0%増）となりました。

（注）セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

(2) 財政状態の分析

資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ736,099千円増加し、7,409,539千円となりました。主な要因は、売掛金、商品及び製品の増加によるものであります。また、当第1四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末に比べ65,766千円減少し、1,041,597千円となりました。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて670,332千円増加の8,451,137千円となりました。

負債の状況

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末に比べ679,710千円増加し、5,966,596千円となりました。主な要因は、買掛金の増加によるものであります。また、当第1四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末に比べ60,132千円減少し、719,686千円となりました。主な要因は、長期借入金の減少によるものであります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ619,577千円増加し、6,686,282千円となりました。

純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ50,755千円増加し、1,764,855千円となりました。主な要因は、子会社であるJ.S.O'will, Inc.を連結範囲に含めたことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

記載すべき事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年8月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,150,000	3,150,000	東京証券取引所 市場第二部	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	3,150,000	3,150,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成26年4月1日～ 平成26年6月30日	-	3,150,000	-	363,387	-	288,387

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,149,000	31,490	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 900	-	-
発行済株式総数	3,150,000	-	-
総株主の議決権	-	31,490	-

【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
オーウイル(株)	東京都港区北青山一丁目2番3号	100	-	100	0.00
計	-	100	-	100	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	987,946	852,460
受取手形及び売掛金	3,533,173	4,043,350
商品及び製品	900,042	1,178,604
未着商品	852,341	703,417
原材料及び貯蔵品	18,076	23,662
未収入金	322,287	466,076
繰延税金資産	22,359	20,705
その他	41,913	126,962
貸倒引当金	4,700	5,700
流動資産合計	6,673,440	7,409,539
固定資産		
有形固定資産	348,213	347,470
無形固定資産	119,376	112,769
投資その他の資産	639,774	581,357
固定資産合計	1,107,364	1,041,597
資産合計	7,780,804	8,451,137
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,727,650	4,485,725
1年内返済予定の長期借入金	302,240	294,256
未払金	1,073,850	971,826
未払法人税等	88,244	19,623
賞与引当金	35,496	23,400
その他	59,403	171,764
流動負債合計	5,286,886	5,966,596
固定負債		
長期借入金	713,267	640,376
資産除去債務	5,946	5,970
その他	60,605	73,339
固定負債合計	779,818	719,686
負債合計	6,066,704	6,686,282

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	363,387	363,387
資本剰余金	288,387	288,387
利益剰余金	1,011,435	955,967
自己株式	105	105
株主資本合計	1,663,105	1,607,637
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	39,576	57,206
繰延ヘッジ損益	2,605	2,212
為替換算調整勘定	8,812	15,091
その他の包括利益累計額合計	50,994	70,085
少数株主持分	-	87,132
純資産合計	1,714,100	1,764,855
負債純資産合計	7,780,804	8,451,137

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	7,478,784	7,396,174
売上原価	6,866,390	6,748,829
売上総利益	612,393	647,344
販売費及び一般管理費	527,896	576,388
営業利益	84,496	70,956
営業外収益		
受取配当金	1,414	1,773
為替差益	27,003	610
受取手数料	1,657	1,611
受取補償金	1,655	714
保険解約返戻金	3,200	-
その他	781	696
営業外収益合計	35,712	5,406
営業外費用		
支払利息	3,040	3,258
支払補償費	1,807	3,420
その他	134	66
営業外費用合計	4,982	6,745
経常利益	115,227	69,617
税金等調整前四半期純利益	115,227	69,617
法人税、住民税及び事業税	42,859	19,251
法人税等調整額	2,807	7,710
法人税等合計	45,666	26,961
少数株主損益調整前四半期純利益	69,560	42,656
少数株主利益	-	1,296
四半期純利益	69,560	41,359

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	69,560	42,656
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,509	17,629
繰延ヘッジ損益	8,309	4,817
為替換算調整勘定	1,088	4,276
その他の包括利益合計	14,907	8,535
四半期包括利益	84,468	51,191
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	84,468	51,259
少数株主に係る四半期包括利益	-	68

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

(1) 連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間より、従来は非連結子会社であったJ.S.O'will, Inc.を、重要性が増加したために連結の範囲に含めております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
投資その他の資産	9,900千円	9,900千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
減価償却費	9,952千円	16,882千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	94,495	30	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	94,494	30	平成26年3月31日	平成26年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	卸売事業	製造販売 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,230,539	47,688	7,278,228	200,555	7,478,784	-	7,478,784
セグメント間の内部 売上高又は振替高	71,881	105,557	177,438	-	177,438	177,438	-
計	7,302,420	153,246	7,455,666	200,555	7,656,222	177,438	7,478,784
セグメント利益	71,824	11,556	83,381	1,006	84,387	109	84,496

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンビニエンスストア小売業を営んでおります。

2. セグメント利益の調整額109千円は、セグメント間取引消去109千円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	卸売事業	製造販売 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,093,117	64,457	7,157,575	238,598	7,396,174	-	7,396,174
セグメント間の内部 売上高又は振替高	69,123	91,453	160,576	-	160,576	160,576	-
計	7,162,241	155,911	7,318,152	238,598	7,556,751	160,576	7,396,174
セグメント利益又は 損失()	62,109	7,467	69,576	1,497	68,079	2,876	70,956

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンビニエンスストア小売業を営んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額2,876千円は、セグメント間取引消去2,876千円であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	22円8銭	13円13銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	69,560	41,359
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	69,560	41,359
普通株式の期中平均株式数(株)	3,149,864	3,149,820

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8月13日

オーウイル株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 齊藤 文男 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 秋田 英明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオーウイル株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、オーウイル株式会社及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。